
平成 26 年度 日臨技北日本支部

生物化学分析部門研修会

【テーマ】「今こそ見せよう検体検査の底力」

【目的】臨床検査の基礎と最新知識の習得、更に検体検査が患者や臨床へ貢献できる
力があることを再認識し、更なるレベルアップを目指すことを目的とする。

【日時】平成 26 年 8 月 23 日（土）13：00～ 8 月 24 日（日）13：00

【場所】東北大学医学部保健学科 大講義室
仙台市青葉区星陵町 2-1

【定員】 80 名

【受講料】 5000 円

【日程】

≪ 1 日目 ≫ 8 月 23 日（土）

12：30 受付

13：00 開講式／オリエンテーション

13：15 講演 1 『これから生物化学分析の診療への貢献』

講師：リージャー微量血液分析研究所 所長

大澤 進 先生

生物化学分析が将来どうなっていくのか、検査をするにあたり検査技師に必要な技術、知識は何か、そして診療へ貢献するためにはどうしたらよいか考える場を提供したい。

14：15 話題提供『新しい肝繊維化マーカー、M2BPGi の紹介』

演者：シスメックス株式会社 仙台支店 プロダクト営業課

小木 真一

14：40 講演 2 『肝疾患の最新の話』

講師：山形大学医学部 内科学第二講座 教授

上野 義之 先生

肝炎ウイルスマーカーの臨床的意義と最新の治療法の紹介と肝臓病学会における最新情報を講師の先生にお話しいただく予定。

15：45 『R-CPC』臨床症例から学ぶ

講師：（元）東北大学医学部保健学科 検査技術科学 教授

吉田 克己 先生

症状や診察所見の情報のない状況で、臨床検査データをもとに、症例の病態を推定しつつ討論する R-CPC を 2 題準備いたします。

16：45 休憩

17:00 イブニングセミナー『糖尿病最新情報』 新薬が変える治療・検査

講師：東北薬科大学病院 糖尿病内科 部長

善積 信介 先生

現在糖尿病に関して DPP-4 阻害薬や SGLT2 阻害薬等新薬が治療に使用されるようになってきている、その新薬によって検査データで気を付けなければいけない点、治療への影響などを糖尿病学会での最新情報を踏まえ講師の先生にお話しただく予定です。

18:00

≪2日目≫ 8月24日(日)

8:30 受付

9:00 講演3『共有基準値について考える』

～あなたの施設の基準値はどのようにして決められましたか。

講師：九州大学大学院医学研究院臨床検査医学

康 東天 先生

臨床検査値を判断するうえで基準範囲は重要ですが、国内で共通基準範囲と認識されるものはなく、各医療施設は様々な基準範囲を使用して診療を行っているのが現状です。この講演では、共有基準値について考える場を提供します。

10:30 休憩

10:40 講演4『生物化学検査のピットフォール』

講師：文京学院大学 保健医療技術学部 名誉教授

公益社団法人 日本臨床検査同学院副理事長

芝 紀代子 先生

日常検査ですでてくる何気ない落とし穴。データ異常が本当の臨床症状を反映することなく、様々な要因で出てくる場合があります。これらは経験で補うことができる場合や知識が十分にあれば対処できることもあります。講師の先生には私たちが陥りやすい間違いをどう考え修正できるかを教えていただこうと思います。

11:50 修了式

研修会事務局

〒984-0075 仙台市若林区清水小路5-6 エステート五橋704号

(一社)宮城県臨床検査技師会事務所

TEL 022-723-4896 FAX 022-723-4901

Emai: member@miyagi-ringi.org

研修会責任者

舩甚 満 東北大学病院検査部

官臨技学術部長

氏家 和明 大崎市民病院